



Reitaku Overseas Development Association

RODA ニューズレター

財団法人麗澤海外開発協会 会報

平成24年
(2012年)

12月1日

第16号

第8巻 第1号
年2回発行

主な記事

巻頭 途上国への教育支援と世界平和
 報告 タイ・スタディツアー開催
 平成23年度事業報告
 その他 寄付金等の報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
 〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
 TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
 発行人・木下廣太郎 / 編集人・横山守男

途上国への教育支援と世界平和



(財)麗澤海外開発協会 副会長
 麗澤大学外国語学部 元教授

竹原 茂

麗澤海外開発協会（RODA）は、40年以上前から途上国の状況を理解し、初めにラオス王国（当時）を支援しました。その後、時代は移り変わり、現在では主にラオス南部サヴァンナケート県、カンボジア、ネパール、タイ北部チェンライ県の少数民族の子供たち等に対して教育支援・人材育成・技術支援等を行っています。

私は、これからの新しい時代にふさわしいRODAの支援のあり方を、次のように考えています。

① 今まで以上に途上国の人材育成に力を入れる。

お金より知識、技術を教えることで、人は一生食べていけるからです。貧困からの脱出には、次世代を担う子供たちの教育が必須です。もちろん、お金も必要ですが、お金をあげると何をするか分からないところもあります。

② 現地の村の教育支援と同時に日本への理解も深める。

途上国の村々の学校や図書館に対して、図書の寄贈や教員の訓練などをしながら、麗澤大学・麗澤高校・麗澤瑞浪高校の学生・生徒、麗澤海外開発協会、モラロジー研究所関係のスタディツアーを行う場にもなる。「一石二鳥」である。世界平和の建設には、特に途上国の経済開発だけでなく、まず人々の教育開発（読み書きや算数ができること）が一番重要だと思います。

“Children are the Country's valuable treasures”

by Dr. Masunori HIRATSUKA

(「子供は国の宝である」：元国立教育研究所所長・元モラロジー研究所顧問・平塚益徳)

これからもどうか末永くRODAにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



麗澤大学タイ・スタディツアー開催 2012年8月22日(水)～31日(金)10日間



平成24年8月22日から10日間、23回目の麗澤大学タイ・スタディツアーが開催されました。タイ北部にあるメーコック財団（貧困等の理由により学校に通えない子供たちに寄宿舎を提供し、通学支援や職業訓練を行っている）を拠点として、インフラ整備のボランティア活動を行ったほか、サハサートスクサー・スクール（山岳民族の子供が通う学校）や民族の村々を訪問、現在の教育問題や子どもたちを取り巻く麻薬問題について学びました。

さらに今回は、ルンアルン（暁）プロジェクト（タイ北部山岳少数民族の教育支援を行い、生徒寮、奨学金制度等を運営している団体）を訪問。新たに展開している日本向けフェアトレード事業のコーヒー農場を見学し、山奥の民家でホームステイをさせていただくという貴重な体験をしました。



【ボランティア活動】

メーコック財団正門の外側から道路にかけての一角をコンクリート舗装しました。大型ミキサー機に水や砂利を放り込んで豪快にミックス。できあがったコンクリートを何度もバケツリレーして次第に道が出来ていきました。タイでは自分たちで道路整備も行いました。



【学生同士の交流会】

ラチャパット大学日本語学科の学生と交流会をしました。タイの学生は自分の将来のためだけでなく、両親や世の中の役に立つために一生懸命勉強に取り組んでいます。麗澤大学の学生は、自分の恵まれた環境に改めて感謝し、自分たちも全力で努力することを誓いました。



【山岳民族の村訪問】

アカ族やカレン族の村をはじめ、いろいろな民族が集まる村落の見学をしました。大きなパラボラアンテナの付いた家や、携帯電話を持っている子どもを目にし、想像していた以上に快適な暮らしをしていることが分かりましたが、同時に伝統文化を残しつつ、発展していく難しさも感じました。



【ホームステイ】

ルンアルン暁の家のスタッフ宅でホームステイをしました。村人は、空のペットボトルも無駄にしません。調味料入れやガーデニングに再利用します。沢山集まればペットボトルや紙は換金できます。日本人の忘れてしまった、物を大切にする『もったいない』文化を目の当たりにし、自分の生活を見直そうと思いました。



ルンアルン暁の家で栽培しているコーヒーの苗。

来年のコーヒー豆の収穫が待ち遠しいです！



タイは貧しいけれど とても豊かな国でした



私が特に思い出に残っているのは、人との触れ合いです。タイで出会った子どもたちは、はるかに年下であるにも関わらず、流暢な英語や日本語を話していたり、刺繍や家事などを当たり前になしていました。日本には義務教育があり、誰しも学校に通うことができます。さらに、多くの人が高校・大学に進学しています。私はとても恵まれた環境にいるのです。しかし、タイに行ってみて、まだ中学生にもなっていない子どもたちが私たちと同等に英語を話している姿を見て、「日本でよい教育環境を与えられている私は、果たして本当に全力で頑張っているのか」と疑問に思いました。私はまだ本気になっていないと思います。これからもっと全力で頑張らなければいけないと思います。また、タイから日本に帰って来て、今まで当たり前だと思っていた見慣れた風景も、



意識して見るようになりました。トイレに紙が流せること、道路が綺麗に舗装されていること、家族と一緒に暮らしていること、学校に通えること、どれも本当にすごいことだったのだと気づきました。もし今回私がこのスタディツアーに参加しなかったら、日本の技術の高さや私たちがいかに快適な生活を送っているかを知ることができなかったと思います。タイについて知っただけでなく、日本という国を客観的に見ることができた旅でもありました。参加して本当によかったです。ありがとうございました。

(麗澤大学国際交流・国際協力専攻1年 鈴木 杏菜)



アカ族の村へ行った時、まだ朝なのにとても陽気でよく話す男の人がいました。朝から酔っぱらっているのかと思ったら、先生が「あの人は麻薬をやっているね」と教えてくれました。私の頭の中には「一般の人が麻薬をやっている」という概念はなかったから、改めて麻薬問題が近くに感じられました。ごく当たり前の村に麻薬をやっている人がいます。山岳民族はまだ経済的に豊かではありません。その上、麻薬は国境付近だと子供でも買えるそうです。高く売れるし、依存性があるから必ず買う人がいるため、売ることをやめない。だから買う人も減らない。負のスパイラルが起きています。親が子供に売らせている場合もあるそうです。麻薬博物館に行った時、どこに麻薬が隠されているかを当てるゲームがありました。スーツケースの中、靴の底、子どもに持たせるなどは想像が付きましたが、カメラの中、猫の体内、骨の中など予想外の場所にあり驚きました。どうしたら麻薬の怖さや危険性が広まるのか、自分なりに考えていきたいと思います。

また、タイに行ってみて気づいたことは、日本にいとせかせかしてしまう、と思いました。タイでは、山のほうに行ったこともあり、時間の流れが本当にゆっくりで、ゆったり過ごすことができ、心にも少し余裕があった気がしました。そのおかげで、バンコクへ行った時は、人が多く、せかせかしているため、人酔いしそうでした。日本にいても、せかせかせずに、心に余裕をもって動ける人になりたいと思います。



タイの人には「微笑みの国」という名前にふさわしいほど、笑顔が溢れていました。市場に行っても、お店の人が笑顔を向けてくれます。タイは、確かに経済的に貧しい国かもしれませんが、どの人も本当に素敵で、日本が学んだほうがよいこともいろいろあるように思いました。

(麗澤大学国際交流・国際協力専攻1年 平賀 絢子)

山岳民族の問題

【麻薬の問題】

タイの山岳地帯では、今も根深く麻薬の問題があります。山岳地帯ではバンコクに比べて5分の1の値段で手に入れることができるため、税の高いタバコより使用する人が多いといえます。近年では安価なものや見た目では麻薬と分かりにくいものが増え、子どもでも簡単に手に入るので、使用したり売買する子が増えています。その背景には、大きな組織が関わっていたり、国境が山のために取引がしやすい、移動式の車の中で製造するため警察に見つかりにくいなどの理由があります。

私たちが訪問したサハサートスクサー・スクールでも問題になっており、学生に対して尿検査を実施しています。現在、チェンライの刑務所では80%の受刑者が麻薬で捕まった人々です。



尿検査キット

【IDカード（身分証明証）の問題】

山岳地帯に住む人々にとって身分を証明するIDカードを持っていることは当たり前ではありません。これは、周辺の国々からの不正移民が多いためです。

IDカードがなければ国籍がないのと同じで、タイ国民とは認められず、正規の高等教育や医療サービスを受けられないほか、他県や他市への移動も禁止されます。就職の制限も厳しく、政府機関では働くことができず、IDカードを持っている人よりも低賃金で、仕事も見つけにくいのです。親が持っていなくても数十年タイ国内に住んでいれば、子供は15歳で申請することができますが、それにもさまざまな条件があり、容易ではありません。このことは、メーコック財団やサハサートスクサー・スクールでも麻薬に次ぐ大きな問題となっています。



【民族衣装の問題】

山岳民族には伝統的な民族衣装がありますが、近代化した現代では山岳地域でもラフでお洒落な格好が増え、民族衣装を着たがらない若者が増えています。また、本来、民族衣装には手の込んだ手縫いの刺繍が施されていますが、最近ではプリントのものが増え、その伝統性は薄れてきています。サハサートスクサー・スクールでは民族精神や伝統文化を残していくため、毎週金曜日に山岳ファッションで登校する日を設けており、すべての学生がそれぞれの民族衣装を身にまとい登校しています。

【農業の問題】

山岳民族は代々、焼畑農業を主として生活を営んできました。しかし、1980年代後半からは、政府の森林保護政策により山林が国立公園や森林保護区に指定される動きが増加しています。そうなれば作物を採ることさえ許されず、農業での生活が困難になってしまいます。

私たちが訪れたルンアルン暁の家周辺でも、農業で生計を立てている村人が多く、この問題に直面しています。さらにIDカードを持たず、識字率が低ければ、他の仕事を探すことは容易でなく、人々はさらに苦しい生活を強いられています。

(麗澤海外開発協会・小林 霞)



タイ・スタディツアーを引率して



麗澤大学外国語学部教授 梅田 徹

本年8月22日から10日間の日程で実施された第23回麗澤大学タイ・スタディツアー（タイスタ）に引率役で参加した。竹原茂先生が長年にわたって実施されてきたツアーを昨年度から私が引き継ぐことになった。引率としては新米で、コーディネーター役の山中香さんに連れて行ってもらった感じが強かった昨年と比べると、本人が言うのはおこがましいが、少しは引率者の風格が出てきたかなと思わせる今年のタイスタであった。

今回の参加者は、麗澤大学外国語学部国際交流・国際協力専攻の学生8名のほか、麗澤海外開発協会からは山中香さんと小林霞さんの2名、それに私を加えた計11名であった。昨年は14名の学生が参加したから、それと比べるとこぢんまりとしたパーティーで、身動きが取りやすかった。ツアー前半はメーコック財団（MKF）で5泊ほどステイした。MKF正門の外側から道路にかけての一角をコンクリート舗装する作業にも携わった。学生たちにとっても相当な重労働だったと思う。サハサートスクサー・スクール訪問、アカ族、カレン族の村落訪問、象乗り体験もした。メーサイまでも足を伸ばした。ゴールデントライアングルでは、昨年行けなかった麻薬博物館にも行った。学生たちが意外に麻薬の話題に興味を示した。

MKF以外では、「暁の家」における研修が印象に残っている。チェンマイから80キロほど南に下がったところにヴィアンパオという町がある。その町に、山岳民族の子供たちを受け入れている「暁の家」がある。中野穂積さんという日本人女性が四半世紀前に始めた学生寮である。そこを運営する財団が始めたコーヒー・プロジェクトとの関連で、一行はコーヒー園に案内された。4輪駆動車で2時間ほど山中に入っていったところにあるアカ族の村からさらに奥に入った場所にコーヒー農園があった。2年前にスタートしたプロジェクトで、来年にはコーヒー豆が収穫できるという。ここで収穫されたコーヒーがフェアトレードのような形で日本に輸出され、農園やアカ族の村の生活改善に繋がるのが期待される。その晩はその村の民家でホームステイをした。私が泊めていただいたのは、「暁の家」のスタッフの実家で、本当に民家らしい民家であった。もっとも、それだけの山奥でも電気は通っているし、テレビや炊飯器もある。日本人が一般に想像するよりは普通の生活に近い。反面、村の伝統文化が少しずつ浸食されているようにも思えた。

昨年、今年と2回にわたってタイスタの引率をして感じるのとは、それぞれの回でタイ社会の発展と表情の違いのようなものがあるということである。同じものを見ても異なった感慨をもつのは悪いことではない。それはそれで自身が成長しているのだ、などと理屈をつけたりもする。タイスタに参加した学生たちもきっと多くのことを学んだに違いない。タイスタの企画を二十数年間続けてこられた竹原茂先生には、今更ながら敬意と感謝の気持ちを表したい。



平成23年度事業報告

1. 技術者の派遣と支援事業への助成について

<ネパール>

- (1) ネパールにおいて東洋療法（鍼灸・指圧）により住民の健康回復に寄与するために、日本人専門家を派遣して治療技術者の育成を行い、治療に使用する「もぐさ」の製造技術者を育成するなどの自立支援と助成を実施した。
- (2) ネパール赤十字カトマンズ支部が運営する東洋医学専門学校（OTTIC）とクリニックへの支援と助成を行った。
- (3) 東洋医学専門学校（OTTIC）が「よもぎの会」の技術支援を受けて実施している無料巡回医療（AMAヘルスキャンプ）を支援した。

<タイ>

- (1) タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の子供に対して生活・教育支援施設の運営事業を実施している、メーコック財団に対して支援と助成を行った。

<カンボジア>

- (1) カンボジアのコンボトム州にあるベン・ロヴィア・レー小学校の校舎建設を行った。

2. スタディツアーの実施および支援について

- (1) タイ北部メーコック財団におけるボランティア研修を通じて、現地の現状と海外NGO活動への理解を深めるため、麗澤大学によるスタディツアーへの支援と協力を行った。

① 日程 平成23年8月23日（火）～9月3日（土）（12日間）

② 参加者 16名

③ 訪問先 タイ（チェンマイ、チェンライ、バンコク）

- (2) 「よもぎの会」のスタディツアー（ヘルスキャンプ）への支援と協力を行った。

① 日程 平成23年8月19日（金）～29日（月）（11日間）

② 行先 ネパール（カトマンズ、ポカラ）ネパール赤十字チトワン支部

③ 参加者 17名

- (3) 当協会がサポートして実施する予定となっていた、麗澤高校タイ・スタディツアーは、タイ国内の洪水被害により中止した。

3. 海外視察について

- (1) ネパールにおける支援事業の現状視察および今後の方針についての打ち合わせのために渡航した。

① 日程 平成23年9月18日（日）～24日（土）

- (2) カンボジアのコンボトム州にあるベン・ロヴィア・レー小学校の校舎建設に伴う贈呈式への参加と現地調査のために渡航した。

① 日程 平成23年12月20日（火）～23日（金）

4. ラオス特命全権大使の来園について

- (1) 麗澤大学の麗陵祭オープニングセレモニーに出席、廣池千九郎記念館見学、貴賓館での会食を行った。

① 日程 平成23年11月3日（木）（文化の日）

② 来園者 シートン・チンヨーテン 特命全権大使 アンマラー・チンヨーテン 同夫人
 バンケオ・カンパボン 三等書記官 バントーン 運転手

5. 広報活動について

- (1) ニューズレター第14号（2011年5月）・15号（2012年2月）を発行した。

- (2) インターネットホームページを改定した。

(URL : <http://www.reitaku.or.jp/>)

6. 講演会・報告会について

- (1) 国際協力を考える映画会を開催した。

① 映画タイトル 「アリ地獄のような街」

② 日程 平成23年6月18日（土）

7. 賛助会員募集状況について

- (1) 賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を行った。

① 賛助会員 法人：8団体 個人：137件

② 寄付金 152件

③ 竹原基金 68件

8. 出展活動について

- (1) 「伝統の日」感謝の集い

平成23年6月4日（土）・6月5日（日）

- (2) モラロジー研究所「生涯学習フェスタ2011」

平成23年10月2日（日）

9. 会議開催について

- (1) 当協会の運営にあたって、次のとおり役員会を開催した。

①第98回理事会・第54回評議員会

②第99回理事会・第55回評議員会

③第100回理事会・第56回評議員会

平成23年度収支決算書

(単位 円)

収入の部		支出の部	
I 事業活動収入		I 事業活動支出	
①基本財産利息収入	100,273	①事業費	
②賛助会費収入	2,150,000	海外調査費	278,391
③寄付金収入	1,782,165	海外旅費	2,170,228
④竹原基金収入	681,558	広報活動費	211,070
⑤受取利息収入	2,783,214	図書資料費	8,160
⑥雑収入	800,300	雑費	1,072,038
事業活動収入合計	8,297,510	緊急援助費	0
II 投資活動収入		事業費合計	3,739,887
①学校建設積立金取崩収	6,000,000	②助成支出	5,997,502
投資活動収入合計	6,000,000	③管理費	
当期収入合計	14,297,510	給料・手当	0
前期繰越収支差額	891,170	雑給	846,400
収入合計	15,188,680	会議費	379,777
		旅費交通費	272,880
		通信費	169,438
		消耗品費	38,417
		印刷費	35,280
		報酬委託手数料	40,035
		貸借費	324,000
		慶弔費	21,000
		雑費	171,156
		管理費合計	2,298,383
		II 投資活動支出	
		①助成事業積立金繰入支出	2,250,000
		当期支出合計	14,285,772
		次期繰越収支差額	902,908
		支出合計	15,188,680

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成24年2月17日～平成24年11月12日)

会費

廣池幹堂、廣池英行、甲良昭彦、望月雄二、内田誠一郎、木下廣太郎、関哲夫、嶋田順子、山口明、新井秀啓、福澤清治、内田八代、長谷和治、竹原茂、土谷和光、荒木郁雄、林正勝、渡辺康博、桑山清和、長谷川武、丸山駿一、高松宇佐雄、小松務、平川恵一、山本祥子、柏谷康博、橋本半兵衛、宮脇常夫、望月靖子、横山印刷(株)、合資 川貞商店、今井收、館林正孝、(株)ダイキョープラザ、田島正幸、所一彌、石渡英雄、柴田英輔、高松 洸、大村金三、長谷篤治、佐藤薬品工業(株)、大垣モラロジー事務所、松本哲洋、藤村薫、野田好秋、望月一雄、古川定邑、望月敏雄、望月淑子、市野忠志、俣野幸昭、山口マーク、桑島義智、(株)小松製菓、(株)スーパーバリュー九州本部、小山松男、山崎純雄、小嶋義佑、前田三作、和田悦治、東海林新彦、井上源一、高野橋孝治、太田徳昭、井上源次、笠原茂、小林雅純、中川千恵子、大内栄三、永治達彦、島田京子、濱井利一、上田通泰、福井博康、桑島朋子、白木貞一郎、藤村きみ、平塚靖永、須見好和、滝沢与吉、松下道子、上田敏子、松岡孝稔、三木実、上田豊、木津孝道、河村満、前田晃伸、高須賀信夫、熊木亜夫、松本彰夫、風澤俊夫、澤田栄作、堀勝三郎、杉山直、小川彰平、岸上肇、菅間正則、山本栄道、井上好長、岩田英志、堀井嘉久、石原順男

準会員

木村寛、舟橋修一、剣真理子、上田宗雄、上田和枝、大嶋久幸、鈴木雅実、小室和子、寺本晴紀、稲生達夫、望月賢一、杉生 ウタエ、杉生 協士、神野幸夫、稲垣敏則、和田久定利、滝田和江、古畑幸生、竹川慈

一般寄付金

廣池幹堂、甲良昭彦、木下廣太郎、関哲夫、山口明、(株)ピアかざりや、新井秀啓、内田八代、長谷和治、大河原良雄、堀部房男、渡辺康博、桑山清和、小松務、大山寿々枝、橋本半兵衛、宮脇常夫、田島正幸、所一彌、長谷篤治、俣野幸昭、桑島義智、小山松男、前田三作、和田悦治、東海林新彦、井上源一、戸田正宏、伊東俊太郎、濱井利一、上田通泰、加藤義彦、福井博康、白木貞一郎、井藤寛一、出町友里子、井上照悟、須見好和、星野修一、三木実、池辺祐三子、井上昭悟、梅田誠之助、桑島祥子、関俊章、松本保、光安輝雄、結城保、柿本勇人、御代川克之、三上ハツミ、鋤柄誠治、勝矢啓司、小金井 暁子、森与喜男、増田顕次郎、大山圭子、板橋芳夫、飯島孝之、飯島孝夫、福田靖久、木野千代子、澤田修一郎、MGC九州大会、よもぎの会、(株)ダスキン東横、大阪旭モラロジー事務所、大阪貝塚モラロジー事務所、札幌豊平モラロジー事務所、静岡県モラロジー協議会女性クラブ、呉東モラロジー事務所、堺北モラロジー事務所、新潟モラロジー事務所、神戸丹有モラロジー事務所、津山モラロジー事務所、東北感謝の集いMGC、東日本生涯学習センター、廣池学園 瑞浪分園 婦人会

竹原基金

廣池幹堂、廣池英行、甲良昭彦、木下廣太郎、関哲夫、田中駿平、山口明、長谷和治、竹原茂、土谷和光、桑山清和、高松宇佐雄、平川恵一、山本祥子、大山寿々枝、柏谷康博、橋本半兵衛、宮脇常夫、田島正幸、所一彌、高松 洸、長谷篤治、松本哲洋、野田好秋、桑島義智、小嶋義佑、前田三作、和田悦治、東海林新彦、井上源一、笠原茂、濱井利一、上田通泰、福井博康、桑島朋子、木津孝道、澤田栄作、山本栄道、加藤栄一郎、加藤信次、御代川克之、山田荘一、鋤柄誠治、鋤柄誠治、松井さだ子、大山圭子、板橋芳夫、(株)めこん、中新田モラロジー事務所

準会員で国際協力を始めませんか？

～1口2,000円からの支援～

麗澤海外開発協会では、1口2,000円からの準会員を募集中です。国際協力を心向けたい、ボランティアに参加したい、そんな方にお勧めです。会員の方には、RODAニューズレターやイベントのお知らせを送付いたします。皆様からご支援いただいた会費は、すべて支援金、また活動基金にさせていただきます。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

種 類	年 額
会 費	個人 1口1万円 (1口以上) 法人 1口1万円 (3口以上)
準 会 費	1口2,000円
竹原基金	任意の寄付金を募ります
一般寄付金 募 金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
名義 (財) 麗澤海外開発協会
※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。
銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567
名義 (財) 麗澤海外開発協会

(財)麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065

千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL：04-7173-3165

FAX：04-7173-8953

E-Mail：kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

HP：http://www.reitaku.or.jp/



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載にご同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。

第9回 平成25年2月6日(水)～2月15日(金)10日間 ラオス・スタディツアー参加者募集中

ラオスの教育問題について現地で触れ、学び、また生活習慣の違う子供たちとの交流から、他国や異文化への理解を深めます。ラオスでは図書設備のない学校が多く、子供たちは満足に本を読むことができません。当協会では、サヴァンナケート大学より依頼を受け、麗澤大学の学生団体 RISOVP と共に図書館に置く図書を贈呈するプロジェクトを行っています。

今回のスタディツアーでは、同大学日本語学科の学生たちとの交流会を行い、友好を深めます。このスタディツアーを通して視野を広げ、自らの新しい可能性を発見してみませんか？

★日程

平成25年2月6日(水)～2月15日(金)10日間

★主な訪問地

ラオス(ヴィエンチャン、サヴァンナケート等)
・IV-JAPAN(国際協力NGO)
・サヴァンナケート大学 等

★募集人数

10名 / 最少催行人数5名
(定員になり次第締め切ります)

★申込期限

平成25年1月11日(金)

★参加費

180,000円

当協会会員でない方は別途会費1万円が必要
(往復航空運賃、空港使用税、期間中の食費・
宿泊費・移動費・コーディネート費を含む)

★応募資格

年齢20歳以上65歳未満
健康状態が良好で全日程に参加できる方
当協会の活動に関心のある方

☆☆☆お問い合わせ・お申し込み先☆☆☆

(財)麗澤海外開発協会

〒277-0065

柏市光ヶ丘2-1-1

Tel:04-7173-3165 Fax:04-7173-8953

e-mail:kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

上記連絡先までご連絡ください。

訪問先情報！



●IV-JAPAN(国際協力NGO)

ラオスにおける学校建設、人材派遣やラオスの青年の自立支援活動をしています。スタディツアーでは、IV-JAPANの事務所で富永幸子代表のお話を伺い、職業訓練校を見学します。

●サヴァンナケート大学日本語学科

サヴァンナケート大学の日本語学科において、ラオスの大学生と交流会を行います。日本の文化を紹介したり、ラオスの学生生活の話を通じて直接会うことができます。

観光先情報！



●タート・ルアン寺院

タート・ルアン(That Luang)は、ラオス仏教の最高の寺院でラオスの代表ともいえる美しい寺院です。伝承では3世紀頃インドからの使いの一行がブッダの胸骨を納めるためにタート・ルアンを建立したと伝えられていますが、定かではありません。

1828年にシャム(現在のタイ)の侵攻により損傷を受け、1936年に改修されています。

